



「こどものしゆせま ちかねる」をやの思いに

8月大教会教会長会議
立教186年8月22日
大教会長 片山幹太

本島通信

発行所 〒763-0223 香川県丸亀市本島町泊268
天理教本島大教会
電話 0877-27-3321 (代)
本島通信編集室 R230824-0828-18
奈良県天理市指柳町270-1
本島話所 〒632-0093
電話 0743-63-1571 (呼)
<https://www.honjima.com>
Email: webmaster@honjima.com
大教会 朝夕おつとめ時間
【9月1日～9月15日】
朝づとめ 午前6時15分
夕づとめ 午後6時45分
【9月16日～9月30日】
朝づとめ 午前6時30分
夕づとめ 午後6時45分

おふで、おふで、おふで、
だんく〜とこどものしゆせま
ちかねる 神のをもわくこればかりなり

(第四号65)

この「こども」とは、いわゆる少年
会員層だけでなく、親神様にとつて
私たちすべての人間を指します。

そして「しゆせ(出世)」とは、社会
的地位や責任が上がったり重くなつ
たりする意味になりますが、おふで
さきは親神様の思召が記されていま
すから、この場合をやの思いに近づ
くこと、教祖の親心を悟ることがで
きることに、教祖の道具衆として親神
様の用向きに使って頂けるよう、ぼく
へ成人することを「しゆせ(出世)」と
いう言葉で表して下さっています。
さらに「神のをもわくこればかり
なり」とありますので、世界に先ん
じて教祖の教えを信仰させて頂いて

天理教本島大教会
三代会長 片山俊次 三十年祭
三代会長夫人片山コスエ二十年祭
10月21日(土)午後2時執行

いる私たちお互いは、まず親神様が
お望みくださる「出世」ができるよう
日々努めさせて頂きましょう。

その努めの延長になります。自
然災害が多く見せられる昨今です。
どのような災害にあつても、こども
の心をたすけあげたいとの親神様の
思召であると悟り、私たちは我がこ
ととして心に受け止め、たすけあい
を通して成人の歩みを進めさせて頂
かねばならないと思うのです。

おふで、おふで、
はや〜と心そろをてしいかりと
つとめするならせかいをさまる

(第十四号92)

月日にハなにかなハんとゆハんでな
みなめへ〜の心したいや
と教えられています。

(第十三号120)

早々と(私たち人間が)心を揃えて
しっかりとつとめをしてくれれば、

世界は治まっていますよ(治めて
いきますよ)とお教え頂いています。
「なにかなハんとゆハん」、そんな願ひ
は叶わないだろう、無理だろうと思わ
ないように、全ては皆銘々の心次第な
のだともお教え頂いております。

「心次第」とは、論達第四号にお示
し下さっている「心の入れ替え」では
ないでしょうか。

年祭活動は、いつもより一歩も二
歩も努力させて頂く。前に進もうと
いう大切な期間です。

例えばおぢばに帰らせて頂いた折
には、本部朝づとめだけではなくて、
夕づとめも勤めさせて頂く。またそ
の朝夕おつとめも、最初から最後ま
で勤めさせて頂く。現在は真柱様の
代わりに大亮様が志をお勤め下さつ
ていますが、大亮様のお出ましから
お下がりがまでおつとめであります
ので、私たちも最初から最後まで勤
めることで成人の歩みを進めさせて
頂きたいと思ひます。

お互い、年祭活動が充実したもの
になるよう、声を掛けあって、励ま
し合つてまいりましょう。

(文責・本島通信編集室)

欲の心を捨て、 一生楽しく豊かな心で

大教会准役員
奥村龍夫 おくむらたつお

私はちょうど3年前のこの月この日、初めて大教会の神殿講話を勤めさせて頂きました。あれから3年が経ちましたが、「光陰矢の如し」との言葉通り、月日が経つのは本当に早いものです。

この3年間を振り返り、私にとって一番大きな出来事は妻の病気であります。



結婚して28年近く、病气らしい病気をしたことなかった妻から、一昨年前の12月25日、詰所で御用をしていた私に電話がかかってきました。「お父さん、私狭心症で今から入院します」と言うのです。

そして病院の先生に電話が替わり「奥様は狭心症で心臓の血管が詰まりかけています。心筋梗塞になるかもしれないので、今日すぐにカテーテルの手術をします。成功の確率は99%です」と仰います。

突然のことで大変驚きましたが、私はすぐ大阪の病院に向かい、手術前の妻におさづけを取り次がせて頂くことができました。上級の会長様も本部神殿でお願いづとめを勤めて下さり、お陰で手術は無事に成功し、妻は一日だけの入院で翌日には退院

することができました。

成功率99%ということですが、やはり私は心配でした。

思い返せば妻はその頃、胸が少し痛むと言っていたのですが、近所の病院では「心電図には特に異常がありません」と言われ、「もし気になるのなら一度大きな病院で診てもらってください」と言われていたのです。

そこでたまたま近くの大きな病院で診てもらったところ、すぐ手術となった次第です。もし大きな病院に行くのが遅れていたら、心筋梗塞で命が危なかったかもしれません。そして、もし妻に何かあれば自分はどうなっていたのだろうか。怖くて想像できません。本当に神様のおかげでたすけて頂いたと思っています。

天理教教典第六章「てびき」に
いかなる病気も、不時災難も、事情のもつれも、皆、銘々の反省を促される篤い親心のあらわれであり、眞の陽氣ぐらしへ導かれる慈愛のてびきに外ならぬ。

しかるに、親神の深い心を知らぬ人々は、ただ眼前の苦しみや悩みに心を奪われて、ややもすれば、あさはかな人間思案から、人を怨み、天を呪い、世をはかなみ、或

は理想を彼岸に求めたりする。とあります。

心の弱い私は、恐らくそうやっていたかもしれません。

また教典第七章「かしもの・かりもの」には、

きゝたくバたつねくるならゆてきかそ よろづいさいのものといんねん(第一号6)

人間には、陽氣ぐらしをさせたという親神の思いが込められている。これが、人間の元々のいんねんである。

とあります。

つまり人間は本来、幸せに暮らせるように親神様の思いが込められて創られているということです。

また教典第七章では、

人の幸福は、その境遇に在るのではなく、人生の苦楽は、外見によつて定るのではない。すべては、銘々の心の持ち方によつて決まる。心の持ち方を正して、日々喜び勇んで生活するのが、信心の道である。とあり、さらに第八章「道すがら」には、

いかなることも親神の思わくと悟り、心を倒さずに、喜び勇んで明るく生活するのが、道の子の歩みで

ある。この心の治め方をたんのうと教えられる。

親神の胸に抱かれ、ひたむきに信仰に進むものは、我が身にふりかかるいかなる悩みや苦しみにも溺れてしまうことなく、むしろ素直に成つて来る理を見つめて通るから、悩みや苦しきも、かえって喜びに転じてくる。かくて、真にたんのうの心が治れば、前生のいんねんは納消される。これを、「たんのうは前生いんねんのさんげ」と諭される。

たんのうは、単なるあきらめでもなければ、又、辛抱でもない。日々、いかなる事が起るうとも、その中に親心を悟つて、益々心をひきしめつつ喜び勇むことである。とあります。私たちの前生や過去に行つた悪いいんねんを納消するのが、たんのうの心であると教えられています。

広辞苑では「たんのう【堪能】」について、「足りヌの音便足ンヌの転訛。「堪能」は当て字。「堪納」とも当てた。①十分にみちること。あきたりること。また、気のすむようにすること。②(堪能かんのうと混同した用法)技能に長たけていること。

と説明されています。

つまり、教祖の教えられる「たんのう」の心は、我慢や辛抱することではなく、十分満足する、つまり喜ぶことだと思えます。

嬉しいことには誰でも喜び満足することが出来ます。しかし嬉しくなれないこと、悲しいこと、嫌なこと、苦しいこと、それらの中をどのようにたんのうして通ることが出来るのか。それは欲の心を減らすことだと私は思います。みかぐらうたに、

よくのないものなけれども かみのまへにハよくはない(五下り目)
よくのこゝろをうちわすれ とくところをさだめかけ(八下り目)
よくがあるならやめてくれ かみのうけとりでけんから(九下り目)
よくにきりないどろみづや こゝろすみきれごくらくや(十下り目)
よくをわすれてひのきしん これがだいゝちこえとなる(十二下り目)
と繰り返し欲についてお説き下さっています。

欲の心は誰もが持ち、泥水のように湧いて来るものですが、神様の前には欲はない。欲を忘れ神様の受け取りをできるように心澄み切れれば極

楽になり、欲を忘れてひのきしんをすれば肥になる。と歌われています。「八つのほこり」でみかぐらうたに出てくるのは欲だけです。恨みも一度出てきますが、「わがみうらみ」で他者に対する恨みではありません。ここから八つのほこりすべてに通じる根本のほこりが「欲」ではないかと思えます。

天理教道友社から出ている「八つのほこり」説き分けには、
欲とは人より多く身に付けたい、何がなんでも取れるだけ取りたいという心、人の目を盗んで數量をばまかし、人の物を取り込み、あるいは無理な儲けを図り暴利をむさぼる、何に寄らず、与えを出さずわが物にするのは強欲、また、色情に溺れるのは色欲であります。とあります。これは正に極悪人でしょう。

教典第七章には、
元来、埃は、吹けば飛ぶほど些細なものである。早めに掃除さえすれば、たやすく綺麗に払えるが、ともすれば積りやすくて、油断をすれば、いつしか、うずだかく積りかさなり、遂には、掃いても拭いても、取り除きにくくなるもの

である。

(中略)

心遣いも、銘々に、私の理として許されているが、親神の心に添わぬ時は、埃のように積りかさなり、知らず識らずのうちに、心は曇って、本来の明るさを失い、遂には手もつけられぬようになる。とあります。ほこりはよほど意識して払う努力をしないと、知らず知らずのうちにどんどん積もり重なり、どうしようもない極悪人になりうるということですよ。

さて話は少し変わりますが、尾上清という人物をご存知でしょうか。アパレル企業「レナウン」の戦後創業者です。片山昇4代会長様と深い親交があり、本島鼓笛隊が1983年と84年、東京デイズニールランドへ2年連続パレード出演したとき、東京広尾にあったレナウンの施設を鼓笛隊リーダーの宿舎に提供して下さったことがありました。

昇会長様は1986年、教祖百年祭の年お出直しになりました。尾上理事長は昇会長様の葬儀に参列して下さいましたが、その2年後、76歳でお亡くなりになりました。その数年後、私たち夫婦が本島詰

所で勤めさせて頂いたとき、片山よ志、前会長様より「尾上清語録」を戴きました。そこには私たちの信仰にもつながる金言が散りばめられています。一つご紹介させて頂きます。

人生の目的。金を貯めたり、地位や榮譽を得たいといった類いの現世利益を求めるのが人生の目的ではない。これらは「つまらない欲」であり「錯覚」だ。人生の目的はこれらの欲を捨てて「一生を楽しく心豊かに送ること」である。欲のあるヤツと欲のないヤツを一騎討ちさせてごらん。欲のないヤツが勝つに決まっている。

起業家のお話ですから、一騎打ちというのは仕事上の一騎打ちかも知れません。欲のない者が勝つに決まっているというのです。

残念なことです。レナウンは3年前の2020年末に経営破綻しました。信じられない出来事でしたが、その背景は安価なファストファッションの台頭、百貨店の低迷、そして中国企業の子会社になったものの新型コロナウイルスの世界的流行により業績が急速に悪化したのが原因とされています。尾上清氏がお亡くなりになって32年後のことでした。語録を拝読し、もし尾上氏が存命な

本隊は50回連続金賞受賞(鼓笛オンパレ)

本島団鼓笛隊 第110回夏季合宿



本島団鼓笛隊(鎌田典夫部長)では、第110回夏季合宿を7月26日から30日までの4泊5日間、本島詰所で実施。総勢100名(内訳・ドリーム隊17名、本隊38名、高校生7名、リーダー38名)が参加しました。

従前より短い合宿期間でしたが、30日の本番を目指して熱心に演奏行進の練習を行いました。さらに「ごどもおちばがえり」期間中と重なっていることから、練習と並行して朝のおつとめ、各種お楽しみ行事、本部食堂でのカレー食、夕づとめ後は今年初めて催された南参道イルミネーションライトアップを見学しました。

30日は南礼拝場前広場にて鼓笛お供演奏(演奏曲目「ありがとう夏のおちば」)、続いて真南通にて鼓笛オンパレードに出演。本隊は「R・Y・G」で金賞、ドリーム隊は「コーヒープレイク」「エレメンタリーマーチ」の2曲で奨励賞を受賞しました。

第55回総会で挨拶に立った大教会長は、「今年も暑い中でしたが、こどもおちばがえりの鼓笛お供演奏、オンパレードが立派にできました。

今日まで一生懸命練習に励んできた皆さまの真剣な演奏が、多くの人の心に響きました。ありがとうございました。

本島鼓笛隊は金賞を取ることだけのために頑張っているわけではありません。私たちの目的は、将来立派な心を持つ人になれるよう、リーダーは思いやりの心が持てるように指導しています。隊員の皆さまにお願いしたいことは二つ。一つ目は、今回で満足するのではなく、次の目標を作ってください。二つ目は、おちかに「たすけあっていこう」とあるように、合宿を通して学んだ助け合う喜びをこれからも身につけてほしいことです。

只今は教祖140年祭という大きな成人の歩みの最中にあります。本島鼓笛隊も一手一つの和を実現する一層充実した隊となるよう頑張ります」と述べられました。

総会后、リーダーによる役員改選が行われ、新たに佐藤道子氏(本太分教会長)が部長に就任しました。またこのたびの鼓笛オンパレードにて、本隊は50回連続金賞受賞を達成。半世紀以上に及ぶ長い伝統に立って、新たな船出となりました。

ら、違ったかたちで荒波を乗り越えていたのではないかと思うと本当に残念です。

最後に、私は妻の病気を救って頂いたことを忘れず、日々勇んで感謝と喜び、そしてたんのうの心で教祖140年祭に向かって三年千日を通らせて頂き、尾上語録にあるように、欲の心を捨てて一生楽しく、豊かな心で、残りの人生を送りたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。
(文責・本島通信編集室)

少年会本島団 第33回総会と夏のつどい

少年会本島団(大上道徳団長)は、8月21日大教会において「第33回総会と夏のつどい」を開催。少年会員25名、高校生9名の計34名が参加しました。テーマは「感謝の心」。

午前10時15分に神殿にて開講式。子供達ははじめに21日夕つとめ後勤められるお願いづつとめに祈念して頂く「お願いづつとめカード」を記入。続いてひのきしんを行いました。

今回は「ありがとうスタンブカード」を用意。子供達は参拝場の畳拭き、廻廊や階段掃除、窓拭きなどひのきしん



を行い、それに感謝の気持ちをもった育成会員らが、子供達の持っているカードにシールを貼っていくというもの。子供達は活き活きと率先してひのきしんを行い、たくさんシールを貼ってもらいました。

午後からは海水浴。今年は平成18年度に環境省が選定する「日本の快水浴場100選」にも選ばれた泊海水浴場(しほり)にて泳いだほか、岡崎八十則役員が所有する小型船舶「八十九」が運航。泊海水浴場から瀬戸大橋まで約30分間の遊覧に教

名ずつ乗船し、全員が塩飽の海を楽しみました。

午後5時15分より神殿にて「第33回総会」を開催。少年会長様の御告辞を頂戴し、続いて挨拶に立った片山幹太育成会長は「良い人間、良い性格、良い運命へと切り替えていくには何が大事か。それは神様を信じ、人を信じる力を養っていくことではないでしょうか。人間世界をお創りくださった親神様のお働きを信じ、いつも私たちの心の成人を見守ってくださいている教祖を信じ、陽気ぐらしという大きな目標に向かって、先輩方が築いてくれた道を、これからしっかりと引き継いでいくことが私たちの使命だと思えます」と述べられました。

夕つとめ後、神殿北側広場にて月次祭に帰参された皆様とともにバーベキュー大会を開催。四会(婦人会・青年会・少年会・学生担当委員会)協賛バザーが軒を並べ、美味しく楽しく賑やかな夏のつどいになりました。

学生会サマーキャンプ

本島学生会(片山元一委員長)は8月17日から19日まで、大教会においてサマーキャンプを実施。4年ぶりとなる今回は学生26名、スタッフ6名が参加しました。

今年は屋釜キャンプ場が閉村していることから、日中の活動は屋釜海水浴場で行い、宿泊は信友会館を利用しました。

17日夕刻大教会に集合。講堂で開講式を済ませた後、3つの班に分かれ、食材を賭けたゲーム対戦。その後、屋釜海水浴場へ移動し、カレーを作りました。

18日午前中は30℃を超える真夏日の中、数人ずつ分かれ



て墓地掃除、風呂掃除、餅つき、バーベキュー準備ひのきしんを行いました。

午後からは屋釜海水浴場にて流しそうめん、海水浴、夕食はバーベキューと、この日は日が落ちるまで屋釜で本島の海を満喫しました。

19日は朝つとめ後、大教会長様よりお話を頂きました。大教会長様は「お道には『一つ一つ』という言葉があります。どんなことも一方だけでなくもう一方がある。自分に目を向けることも大事ですが、自分以外の人にも目を向けることと、おたすけにつながります」と、おたすけについての話を頂きました。

続いて午前8時より、男性は青年会「あらしとつりよう入門塾」、女性は「婦人会女子青年のつどい」に分かれて参加。その後、閉講式を行い、来春またおちばで集まることを誓い合いました。

期間中、雨天の予報でしたが、最後まで好天に恵まれました。

MOMOの会「女鳴物勉強会」



若い婦人会員や子育て中の母親らによる「MOMOの会」が、鼓笛合宿中の7月29日午前10時より午後4時30分まで、本島話所北棟1階大広間にて「女鳴物勉強会」を実施。14名が受講し、おつとめ修練部委員5名が指導に当たりました。

三味線や胡弓の糸の付け方、琴の調弦、弾く前の準備や片づけなど、鳴り物の扱い方に重点を置いて勉強会が行われました。

受講者からは「鳴物を拭いて片付ける事を知らなかった。教会の鳴物を拭くところ

から始めたい。」「今まで自分では良いと思っていた弾き方が自己流で、違うことに気づけた。」「手作りの特大糸巻での説明が大変分かりやすかった」などの感想が寄せられました。

こかん様に続く会

女子青年層を対象とした「こかん様に続く会」が、鼓笛合宿中の7月28日午後9時より本島話所において実施。5名が参加しました。

吉田要子委員より「こかん様のみちすがら」についてお話があり、続いて茶話会が和やかに行われました。

3代会長年祭の踊り練習

勇んだ直会なおらいのお好きだった3代会長様を偲び、来たる30年祭の直会の踊りの練習を左記の通り行います。

記

日時・9月22日夕づとめ後
場所・大教会講堂

【本島大教会】

あらしとつりよう入門塾

青年会本島分会(伊東賢太郎委員長)では、8月19日午前8時より、男子学生を対象に「あらしとつりよう入門塾」を実施。学生12名、委員2名で青年会活動について話をした後、本島港まで神名流しを行いました。



婦人会女子青年の集い

婦人会本島支部(片山かおり支部長)では、女子学生を対象に「女子青年の集い」を実施。学生14名が参加しました。片山かおり支部長より「人生においても辛いこと、悲しいことと直面したときに、教祖のみ教えは心を前向きに切り替えることができます。少しでも多くのみ教えを知って実行し、素敵な女性になってください」とお話がありました。

本島野球部 逆転惜敗

第50回全教野球大会が親里で開催され、香川県予選を勝ち抜いた本島大教会野球部は、一回戦を8月26日午後5時より白川グラウンドにて、奈良県代表の岡大教会と対戦しました。



初回に5点先制した本島は、5回まで8対2でリードしてきましたが、6回に6点差をひっくり返され、8対9と逆転サヨナラ負けを喫しました。

なお、野球部では、毎月大教会でバザーを通して活動資金を集めてきました。ご協力ありがとうございました。

赤峰少年会おとまり会

赤峰分教会(向所隆文会長・宮崎県都城市)では、8月13日から2泊3日間、同教会を会場に教会おとまり会(赤峰キャンプ)を実施。少年会員10名、育成会員9名の19名が参加しました。

教話、おつとめ鳴物稽古、乗用草刈機を使って草刈ひのきしん、宿題勉強会、広い境内地を利用したウォークラリーなどを行い、プールにも行きました。さらに飯ごう炊き、流しそうめん、バーベキュー、カレー、ピザなども子供達が協力して作り、夜は境内地の芝生にテントを設営し、ぐっすり眠りました。

昨年からの太鼓にも挑戦していて、最終日は月次祭終了後、神殿にて元気よくAdo「新時代」をお供演奏しました。



天高ハトン部が神峰分教会へ

この夏、第47回全国高等学校総合文化祭(2023)がこしま総文)が鹿児島県内で開催され、マーチングバンド・バントワリング部門に奈良県代表として天理高等学校バントワリング部が出場。7月31日に西原商会アリーナ(鹿児島アリーナ)にてプログラムが行われ、天理高校は全国42校の中でもひときわ素晴らしい演技を披露しました。バトン部3年に橋口有理さん(神峰分教会長子弟)が在籍していたことから、神峰分教会(橋口徹会長・鹿児島市)



が受け入れを全面的にサポート。鹿児島県内での移動や宿泊の世話取りを行いました。

一行は7月29日に新幹線で鹿児島へ到着。夕方市内で行われたパレードでは審査の結果、優秀賞に相当する「グッドパレード賞」を受賞。30日は過密なスケジュールの中で、午前中神峰分教会を参拝。お願いとめが勤められました。31日の本番で素晴らしい演技を披露した後、台風接近に伴う交通事情の中、無事におおばへ帰られました。

大教会長動向

- ▼9月(予定)▲
- 3日、香川教区役職者会議
- 11日～17日、海外巡教
- 22日、大教会月次祭執行
- 23日、大教会秋季霊祭執行
- 24日、修養科総立ちまなび
- 25日、かなめ委員会
- 26日、本部月次祭参拝
- 27日、本部秋季霊祭参拝
- かなめ会
- 28日～30日、全教一斉にをいがけデー
- 30日、本部神殿奉仕当番
- 以上

たのしみみち
たのしみみち

細道は通りよい
往還通り難い



【教会の掲げ板】
本島ドットコムよりダウンロードできます

「教祖140年祭天主教一斉巡教」実施報告

- ◆期間：立教186年2月～5月
 - ◆実施教会数：159教会
 - ◆国内137教会、海外22教会
 - ◆受講者数：1990名
 - ◆国内1736名、海外254名
- 【総務部】

秋季霊祭のご案内

9月23日、大教会で執り行われる秋季霊祭には、左記の霊様が年祭に当たっておられますので、ご連絡いたします。

- 一年祭
 - 片山なるみ 刀自(本宣道)
 - 白垣トモ子 刀自(本廣)
 - 岩橋 肇主(本宮濱)
 - 片山 肇主(本攝)
 - 五年祭
 - 平井ちか代 刀自(本島)
 - 上野金治主(本都)
 - 二十年祭
 - 輔野信之主(本島)
 - 輔野かず子 刀自(本島)
 - 丸田雅子 刀自(雅峰)
 - 三十年祭
 - 赤木市太郎 主(ミッドウエスト)
 - 小橋孝三主(本島)
 - 向所トヨエ 刀自(赤峰)
 - 四十年祭
 - 土居 睦主(都峰)
 - 五十年祭
 - 吉田ハン 刀自(本千代)
 - 都築伊勢吉主(本亀)
- 【計十五霊】

※教会名は連絡先であり、実際の所属とは異なる場合もあります。

「学生生徒修養会高校の部」受講者名簿

- (立教186年8月11日～15日) 【計5名】
- 受講生
 - (3年生)肥後八峰△赤澤蓮△甲斐高人(2年生)△大駿峰△森安正
 - ▼吉松峰△宮林明音
 - (1年生)▼雄福峰△北山絵里加
 - スタッフ
 - ▼本備前△伊東賢太郎
 - ▼与島△岡崎希恵
 - ▼栄東峰△川村幸代

ろくぢぢ会 (立教186年7月分)

- ▼本島△片山幹太・片山かおり・香葉子・幹太郎・好次・昇太△片山秀明△長尾真実・幸太
 - ▼樺太分教会
 - ▼本樺△大上ほの香・はる香・太吉
 - ▼本浜△片山清枝・正枝・誠
 - ▼攝泉分教会
 - ▼崇徳分教会
 - ▼本高分教会
 - ▼ポーランド△片和信・山陽子・昇慶・童次
- ご芳志に厚くお礼申し上げます

事情はいつ

(立教186年8月26日)
 本新田分教会
 任命願
 新任教会長 窪田卓夫
 臨時祭典願
 就任奉告祭 立教186年11月12日
 以上

おさづけの理拝戴

(立教186年7月分)
 南峰 井上明香
 別峰 山本兼也芽
 ホノルル
 Austin Fujisato
 Ramos Suzuki
 マリーナ 岩橋 芽
 サウザンパシフィック
 Riki Caris Okazaki
 【計6名】

教人資格講習修了

(立教186年7月分)
 本水島 山下道貴
 【計1名】

をびや許し

(立教186年7月分)
 ▼本淀△袖木みほ ▼本邦△
 安藤葉月 ▼本白比△石原梨
 安 ▼本陽泉△吉村千里 ▼
 文峰△福留千晶 ▼銀峰△大
 塚真奈美 ▼鶴峰△安元仁美
 【計7名】

証拠守り下附

(立教186年7月分)
 本淀1
 【計1名】

少年会新隊長

(立教186年6月26日付)
 本勇隊 井上壮太郎
 (立教186年7月26日付)
 攝良隊 牛原愛奈
 【計2隊】

誕生おめでとう

高橋英汰くん(令和5年7月
 23日生まれ、本米臺分教会)

統計 (7月1日~31日)

布教部報告(8月分)

布教部では全教会提出(提出教会数の増加)を目指しています。右側の数字は今年1月からの報告回数です。毎月新たに「1」の教会が増えていくことが目標です。なお従来の「にをいがけ人数」は省略し、全体の総数のみ記載することにいたしました。

教会名	初席	中席	参り回数	條科	教人講習	検定講習
本 田 中	2					
本 都		1				
本 京	1					
本 千 代		1				
本 幹				2		
本 水 島					1	
本 備 前		1				
南 峰			1			
神 峰	1					
大隅聖峰	1					
大 駿 峰		1				
別 峰			1			
鶴 峰	1					
ホノルル	2	2	2			
マリーナ			1			
サウザンパシフィック			1			
ハリウッド	1					
合 計	9	6	6	2	1	0

にをいがけ名簿提出教会 (8月)			おさづけ取次報告教会 (8月)		
本 島 2	本千恵 4	南 峰 3	本 島 7	本千代 8	赤 峰 8
樺 太 7	本 攝 1	吉 峰 5	樺 太 7	本千賀 2	雅 峰 6
本倉岡 8	本 萩 3	神 峰 4	本倉岡 8	本千恵 5	吉 峰 4
本 樺 8	琴 浦 3	豪 峰 8	本 樺 8	本平濱 7	豪 峰 7
本 室 8	本備前 7	雄福峰 2	本 室 8	本 攝 4	倉 峰 8
本 都 8	本 迪 3	雄山峰 5	本 都 3	攝 泉 5	大雄峰 3
本 京 8	本府中 8	栄東峰 8	本 京 8	本 萩 4	雄福峰 2
本 三 2	沖 浦 3	壺 峰 8	本道盛 3	本水島 8	栄東峰 2
本 惠 5	馬木尾 1	實 峰 7	本 三 4	本備前 8	壺 峰 8
本惠明 5	崇 徳 8	大駿峰 3	本 惠 5	本 迪 4	實 峰 5
本静濱 3	与 島 5	大英峰 3	本惠山 4	本府中 8	大駿峰 5
本日米 5	本宣道 8	文 峰 4	本惠明 5	沖 浦 3	大英峰 3
本 米 4	本 九 1	肥後八峰 4	本静濱 3	崇 徳 8	文 峰 4
本米里 3	本陽山 8	鶴 峰 5	本 浜 5	与 島 5	肥後八峰 4
本千代 8	本新田 7	都 峰 4	本 米 4	本 勇 4	鶴 峰 5
本千賀 4	赤 峰 8	仙 峰 8	本米臺 2	本陽山 8	都 峰 2
本千治 4	雅 峰 6	エヌ・シー 1	本米里 3	本肥港 4	仙 峰 8
			本米浜 4	本新田 4	エヌ・シー 1
計 51 教会	413 名		計 54 教会	1,203 回	



3代会長片山俊次30年祭



【総務部】

本島大教会 3代会長片山俊次主 30年祭
3代会長夫人片山コズエ刀自 20年祭

- 日時：10月21日(土)午後2時執行
- 場所：本島大教会
- タイムスケジュール
9:00 墓前祭
宮森与一郎先生ご到着
13:15 おつとめ奉仕者集合
13:30 祖霊殿開扉・献饌
14:00 神殿の儀 てをどり
祖霊殿の儀
大教会長あいさつ
記念撮影
徹饌
夕づとめ・お願いづとめ
直会
後片付け

尚、翌日の秋季大祭において宮森与一郎先生より神殿講話を頂きます。

- 帰参報告は直轄教会ごと取りまとめ、9月18日まで大教会総務部へご提出ください。郵送、ファックス可
- 帰参報告書は本島ドットコムよりダウンロードできます。

宮森先生おてなoshi

【おつとめ修煉部】

- 日時：9月25日(月)午後3時より
- 会場：本島詰所

ようばく研修会

【布教部】

- 日時：10月25日(水)
18:30～20:00
- 会場：本島詰所4階講堂
- 参加御供：500円(但し修養科生、講習生、学生は無料)
- 講師：金山元春先生(天理大学教授)
【人と関わる知恵】

全教一斉にをいがけデー

【教会本部】

- 期日：9月28日(木)、29日(金)、30日(土)

9月にをいがけ強調月間



【布教部】

にをいがけ名簿・おさづけ取次報告「しおり」を全教会に配布しました。本島ドットコムからもダウンロードできます。



- 9月は「にをいがけ強調月間」全教会が実動し、「にをいがけ名簿」「おさづけ取次報告」を9月21日まで大教会へお届けください。
- 活動報告を10月21日まで大教会へご提出ください。

みちのだいおはなし会

【婦人会本部】

- 日時：9月26日(火)午後1時～2時
- 会場：南右第二棟陽気ホール
- テーマ：心豊かに美しく生きる道を求めて～人への寄り添いは自分自身への寄り添い～
- 講師：宇田まゆみ先生(敷島支部)
- 婦人会本部の行事ですが、男性も聴講可。託児はありません。

<https://www.honjima.com/>



は、本島ドットコムより関連資料をダウンロードすることができます。トップページ>各種ダウンロード

9月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

- 〈大教会・炊事ひのきしん〉
- 期間：9月21日～23日
- 派遣教会：本九①

〈詰所・食堂ひのきしん〉

- 期間：9月25日～26日
- 派遣教会：渋谷①、崇徳①

大教会9月月次祭ライブ中継

【本島通信編集室】

- 対象：9月22日大教会9月月次祭に参拝できないため、ライブ中継視聴を希望する方
- 申込方法：メールで、live@honjima.comに「ライブ希望」と「教会名・氏名」を記入してお申し込みください。当日朝ライブ視聴できるアドレスをメールでお知らせします。
- 申込締切：9月21日午後5時まで
- ご注意：ライブ中継は毎月のお申し込みとなります。



秋季雅楽講習会

【青年会本島分会】

- 日時：10月8日(日)午前10時～9日(祝)午後3時解散
- 会場：本島詰所
- 内容：経験者は太食調、初心者は平調

年祭準備ひのきしん

【青年会本島分会】

- 日時：10月14日(土)午前10時集合～15日(日)午後3時解散
- 場所：本島大教会

ダンディーキャンプ

【青年会本島分会】

- 日時：9月9日(土)午前10時集合
9月10日(日)午後4時解散
- 会場：本島大教会
- 参加御供：1,000円
- 趣旨：青年会員同士の親睦と本島の魅力を味わう